

リエぞん



〈編集・発行〉
独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
<http://www.nho-nara.jp>

Liaison

vol.35

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

平成30年1月

医療関係者の皆様へ 「リエぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで付けました。

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します。

平成30年を迎えて

院長 星田 徹



当院院長として赴任し早10年目を迎え、ふり返ると大きな2つの「流れ」を感じています。1つ目は厚生労働省の目指す方向性を考えてみました。当院は、療養介護事業や多機能型通所事業を展開していることから、医療のみならず障害福祉にも深く関わりあっています。これは他の医療機関と大きく異なる面ではありますが、過去10年間の医療、介護福祉、障害福祉の総費用額・伸び率の推移を振り返ると、今後の厚生労働省の方向性が明瞭に浮かび上がってきます。平成18年度の医療、介護、障害の総費用額は、33.1兆円、6.4兆円、0.6兆円であったものが、平成27年度には42.4兆円、10.1兆円、2.1兆円となっています。今年度はこれらの数字を大きく上回るのでしょうか、実態の数字はまだ明確にはなっていません。この数字を眺めていると、障害福祉の5倍が介護福祉、介護福祉の4倍が医療にかかる

費用であります。対前年度伸び率の平均から眺めると、医療は2.8%、介護は5.3%、障害は10.4%であり、3者を比較すると2倍、4倍を示しています。さらにこの10年間の伸び率でみると医療は128.1%、介護は157.8%、に対して障害は233.3%になっています。平成30年度に診療、介護報酬同時改定が行われますが、上記を踏まえると医療のみならず、介護・障害福祉にかかる費用が今後も倍々に増加することは実質上ありえないのではないかと考えられます。

2つ目は、この10年間の当院と奈良県の医療を振り返ってみました。国立病院機構奈良医療センターとして平成16年12月に発足してから早13年を経過しています。当院に赴任した平成20年当時、奈良県には平成19年4月から施行されているはずの地域医療計画が策定されていませんでした。4疾病5事業に向けた医療の確保ができていない中で、奈良県地域医療等対策協議会やその作業部会が開かれるようになりましたが、当院が担う重症心身障害や筋ジストロフィー、神経難病、結核に関しては、何ら触れられていない状況でありました。そのような中で、平成21年10月奈良県地域医療再生計画ⅠおよびⅡが発表されました。この内容を覚えておられるでしょうか。奈良県の地域医療計画＝県立病院医療計画でありました。昨年から今年にかけて声高々に叫ばれているのは、地域医療構想奈良モデルの提唱であります。奈良県が全国に先駆けて医療構想の策定が進んでいるので、隔世の感があると言わざるを得ません。今後どのような方向に舵取りが進むのでしょうか、しっかり確認しなければなりません。患者中心の医療・介護・福祉が確実に進んでいくように、病院挙げて協力してまいります。より地に足の着いた地域連携を推進していく所存ですので、今年も引き続き宜しくお願ひ致します。

Contents

- 平成30年を迎えて ————— 1
- マンモグラフィ検診施設画像認定を取得しました! ——— 4
- クリスマスコンサート ————— 6
- 不随意運動疾患センター ————— 2
- ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの訪問 ——— 5
- 我が家のペット自慢 ————— 6
- 着任ご紹介 ————— 3